



自由が丘「ザ・ガーデン」本店でのパン工房「プクプク」出店初日、谷山哲浩理事長と中島學事務局長がスタッフを激励



目次 contents

- 01 平成30年 年頭所感
谷山理事長
- 02 職員が日本で一番
働きやすい職場を
目指して
- 03 いたるの働き方改革
～就業規則・賃金
規程を再構築～
- 04 パン工房プクプク、
新たな挑戦
- 05 職員の経営意識を
高める「アメーバ
経営」導入
「地域共生社会」の
実現に向けて
- 06 短期入所クローバー
全面改装！
【目黒本町福祉工房】
ご利用様が、第2
回目黒シティラン
に出場！

平成30年 年頭所感

社会福祉法人いたるセンター 理事長

谷山 哲浩

明けましておめでとうございませす。昨年は設立50周年に際して格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

年頭にあたり、新たな50年への幕を切ったいたるセンターは、少子高齢化による労働力の確保がさらに難しい時代に突入しました。未来を見据えて、職員が働きたいと思える魅力ある法人、働き続けたいと思える法人であることを、広く「見える化」することが重要です。そのために、働き方改革や多様な人材の登用などを、積極的に推進していきます。

この度、その設立に理事として参画した「全国介護事業協同組合」は、事業に関する経営および技術の改善・向上を目指すとともに、共同購入や教育、福利厚生、海外

技能実習生の採用なども視野に入れています。昨年10月にベトナムから迎い入れた2名の留学生は、日本語学校に通う傍ら、グループホームの清掃や調理補助などに携わっています。他の事業部でも、海外からの人材を積極採用し、差別や偏見のない風通しの良い職場を形成しました。

また、エコール・ド・イタールの教育部では、「職員研修とキャリアアップ制度の拡充」を進めてきました。新人職員研修に加え、階層別研修を行い、さらに介護職員初任者研修の費用や国家試験受験料なども補助しています。

昨年から進めてきたアメーバ経営については、すでに各事業部の実務教育に重点を置き、毎月のマネジメントレビューがスタートし

ました。全員参加経営の実践と検証が進み、事業部によっては結果が出ているところもあります。

次に、保育園やグループホームについては、積極的に事業の拡大を図り、平成30年4月には小規模保育園を荻窪駅前、同10月には、10床の共同生活介護施設を世田谷区と練馬区に2カ所開設予定です。

また、平成30年4月から、高齢者と障害者が同一の事業所でサービスを受けやすくするために位置付けられた「共生型サービス」も始まります。地域共生社会の実現に向けた我が国の指針は、「自立と共生を求めて 個性が響きあうしなやかな社会を目指す」いたるセンターの理念と、ベクトルがしっかりと合っています。

志と決意を職員とともに共有し、邁進いたします。今年も、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。
「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。
年会費 1口5千円(何口でも可)
郵便振り込み 00110712892
(間) 336027346 事務局 山本まで

職員を大切にすることが、利用者や保護者を大切にすることにつながる。

職員が日本で一番働きやすい職場を目指して

365日・24時間体制で、変化する地域福祉ニーズに応え続けてきた、社会福祉法人いたるセンター。「自立と共生を求めて 個性が響き合う しなやかな社会を目指します」という、理念の下、真摯に、懸命に、夢と希望を持って働いてくれる職員の人々に、働きやすい職場作りで応えたい。今回はそんな特集を組んでみました。

育児休暇で、満点。パ。パ！

いたるセンターのイクメンたち

社会福祉法人いたるセンターでは、待機児童問題が世間を賑わした一昨年からは、結婚・出産された女性職員の要望に応じて、独自に事業所内保育園「いっしょおうちえん」を開設し、職場への早期復帰を支援してきました。

これと同時に、男性職員からも、積極的に子育てに参加できるよう、育児休暇を取りやすい環境整備を、という声が上がりました。厚生労働省は、2020年度には男性の育児休暇取得率を13%に引き上げたいとしています。厚生労働省は、2020年度には男性の育児休暇取得率を13%に引き上げたいとしています。厚生労働省は、2020年度には男性の育児休暇取得率を13%に引き上げたいとしています。厚生労働省は、2020年度には男性の育児休暇取得率を13%に引き上げたいとしています。

働きやすい職場作りを目指している。イクメン2名をご紹介します。

パン工房プクプク

統括リーダー 池田暢史

この度11月21日から3ヶ月間の育児休暇を取得しました。まずは、取得できた環境を作っていた

たプクプクスタッフならびに法人の皆様へ感謝申し上げます。9月8日に愛娘「京依（けい）」が誕生しました。当時は低体重児（2221g）だったのでとても心配しましたが、現在3カ月が経ちすくすくと成長しております。3時間ごとの授乳（といつてもわたしはできませんが・・・）が日々の大きな軸となり昼夜を問わず妻が授乳しております。私は主に家事や入浴を担当しています。不意の排泄時は一家で大騒動になります。一方では大変安堵している私たちです。



上から読んでも下から読んでも「いけだけい」ちゃんです！

日々の加速度的な心身の成長には目を見張る一方、親としての自



バンブル

中級職員 今林敏之

昨年の一月後半より三か月間育児休暇を取らせて頂いて大変感謝しています。当初は同居の母親に面倒をみてもらうつもりが認知症の疑いで不可能になり、子供を保育園に入園させら

れなければ現職を続けるのは難しいと考えていました。生まれた子供以外に三歳の子も同時に入園させることなど情報からすれば不可能だと。しかし、奇跡的にキャンセルがあり同じ保育園に入園することが出来ました。それと、もう一つ、育休五日目に母親の乳癌を偶然発見出来て、ステージ4にも関わらず手術は成功して今も元気にデイサービスに出掛けています。



パパ、ありがとう！笑顔の「やちよ」ちゃんです！

あまりにも立て続けにさまざま出来事が起こり、育児休暇が取得できなかったら、どうなっていたかを考えると、とにかく感謝の一言です。追伸 子供の名前は八千代です。宝塚の往年のスター春日野八千代から付けました。

多様な国から、多様な働き方で！ とともに働く仲間が、国境を越えて増加中！

我が国では、生産年齢の人口の減少、雇用の流動化、労働感の多様化にともない、早くからダイバーシティの必要性を意識してきました。

障害者や高齢者への福祉サービスを提供してきた私たちにとって、年齢や性別はもちろん、国籍や人種、文化や価値観、ライフスタイルなど、さまざまな多様性を認め合うことに、抵抗はありません。だからこそ、海外から来た仲間を、多く受け入れてきました。ここでは、社会福祉法人いたるセンターの各施設で働く皆さんをご紹介します。



清掃をするフォンさんとズンさん

ベトナムから迎え入れた留学生のフォンさんとズンさんは、昨年10月に来日しました。法人の職員寮を生活拠点として、日本語学校に通い、グループホームの補助的作業を行っています。お二人に法人の印象や業務について聞いてみました。

「いたるセンターの皆さんは優しい方ばかりです。いつもとても親切に接してくれています。おかげで毎日楽しく仕事をさせてもらっています。」

「まだ日本語を勉強中ですので、利用者の方とは上手くコミュニケーションがとれませんが、利用者の皆さんは純粋でかわいいです。」(フォンさん)

「各居室や廊下やリビング、トイレやお風呂のお掃除をしています。また、利用者さんのお食事を作って提供し、後片付けもしています。」(ズンさん)

また、グループホーム「ワルツ」で働くダトさんも、ベトナム出身。昨年12月に非常勤職員となり、活躍しています。

「いたるセンターに入る時は、緊張しましたがみんなとても親切です。楽しい人がたくさんいてうれしかったです。親切に話しかけてくれます。日本語を勉強して利用者たくさんお話ができたらいいなと思います。仕事の内容は、利用者さんのお帰りなさいから始



ご利用者様の笑顔が大好き、と語るダトさん

まり、いつてらっしゃいすることです。利用者が帰ってくると体の温度をはかったり、お風呂に入れたり、ごはんを作ったりとたくさんやる必要があります。仕事はちよつとむずかしいですが、おもしろいです。私は頑張ります」

あけぼの作業所で常勤職員として働くエマさんは、イギリス出身です。昨年の4月に入職し、当法人の「介護職員初任者研修」を受講、優秀な成績で修了しました。現在は、生活介護事業部で多くのご利用者様の支援にあたっています。エマさんには日本語で近況報告を書いてもらいました。

「多様な事業所を運営するいたるセンターは、幅広いネットワークを持ち、様々なつながりを活かしながら、人と人との出会いを育んでいると思います。4月から働き始めたのですが、自分の価値観を考えなおし、再確認する機会も得ています。」

あけぼの作業所では様々な方と一緒に仕事ができ、みんなで協力



ご利用者様と余暇活動を楽しむエマさん(左)

し合うことでその日の「目標」を達成しています。防虫剤、洗剤、手芸、精米、クラフト制作、ポスティングの作業が中心ですが、絵音楽、映像、フィットネス、誕生会の余暇活動も多くて、みなさんと楽しくやっています。メンバーとのチームワークが素晴らしく、生活介護のグループでは同時に意識しないといけないことも多いのですが、いろいろな力をもらい、いつも刺激を受けています。この環境の中で仕事するのが貴重な経験だと思っています」

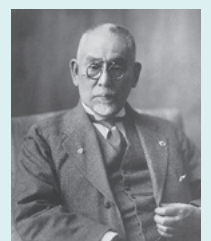
こうした海外から来た職員たちが経験を積み、母国に帰ったら、いたるセンターの「のれん」を使って独立・起業できるような構想も計画中です。いつか、それぞれの母国や国際的な課題の解決に貢献できるような人物になつてもらえるよう、一人ひとりの職員を大切に育ててまいります。

理事長の一言

「財を遺すは下、事業を遺すは中、人を遺すは上」

～この後藤新平氏の金言は、人財育成に注力するいたるセンターの原点です～

明治から昭和初期にかけて活躍した政治家、後藤新平の言葉です。実際には「財を遺すは下、事業を遺すは中、人を遺すは上なり、されど、財なくんば事業保ち難く、事業なくんば人育ち難し」と続きます。南満洲鉄道初代総裁に就任した際は、多くの若く優秀な人材を招聘し、満鉄のインフラ整備、衛生施設の拡充、大連などの都市の建設に当たりました。私は、法人の改革指針である「いたる維新」の中でも、教育分野の基本方針として、この言葉を掲げました。職員を大切に、職員の力を大きく伸ばそうとする企業風土の形成は、今後も変わる事のない、いたるセンターのビジョンです。



後藤 新平

いたるの働き方改革

就業規則・賃金規程を再構築 ワークライフバランスを重視、職員が自ら選べるキャリアパスを

現在我が国は、その構造的な問題である少子高齢化に真正面から挑み、「希望を生み出す強い経済」、「夢をつむぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」の「新・三本の矢」の実現を目的とする「一億総活躍社会」の実現に向けて、政府を挙げて取り組んでいます。なかでも働き方改革は、働く人の視点に立ち、一人ひとりがより良い将来の展望を持ち得るようにするものです。

社会福祉法人いたるセンターでも、平成30年度に向け、大規模な働き方改革の準備を進めています。職員が300名を超え、提供するサービスも多様化し、その職種や勤務地、労働時間なども大きく様変わりしてきたからです。働き方改革は、多様な働き方を可能にするとともに、個性と多様性を尊重され、それ

ぞれの希望がかなない、それぞれの能力を発揮でき、それぞれが生きていけることが理想です。それを踏まえて提起しているのが、「限定正職員」という新たな働き方のカテゴリーです。これは、労働条件の中の「労働時間」、「職種」、「勤務地」の3つの条件に対して、職員の事情に応じた限定的な労働条件の下、働くことができます。これにより、いままでであれば昇進や異動があつた際、何らかの事情でそれを受けられなかつた職員でも、自分に合った働き方を選択しながら、キャリアを設計することが可能になります。

この他にも、「月給職員」や「パートナー職員」については、国の示す労働条件や運用詳細に従い、就業規則や賃金規程もそれぞれ整備するなど、俗に言う「正規」と「非正規」の格差を埋めていく方向



職員研修でも働き方改革を解説

です。

こうした新たな取組みについては、全体職員研修やグループリーダー研修、常勤職員研修などで説明し、各事業部でのパートナー職員とのミーティングなどでも、新たなルールに対する考え方や情報を積極的に開示していきます。その上で、どうしたら働きやすくなるかを、法人と職員一人ひとりが全体で話し合いながら、より良いルールを作り上げ、理想的な働き方改革の実現に向けて全力を尽くしてまいります。

パン工房プクプク、新たな挑戦

荻窪ルミネに続き、自由が丘「ザ・ガーデン」本店に出店



昨年7月、ルミネ荻窪に出店したパン工房プクプク

昨年7月6日、社会福祉法人いたるセンターの就業継続支援A型事業である「パン工房プクプク」は、ルミネ荻窪・地下1階食品売場にある、高質食品スーパーマーケット「ザ・ガーデン」にコーナー出店いたしました。この契機は、株式会社シェルガーデンの商品部長がご来店され、「100%国産小麦」、「100%天然酵母」、「小さなお子さんが安心して食べられる」というコンセプトや、保育園などへの納品実績などを評価いただいたことからはじまります。小売り大手への出店をどうすれば



老舗・自由が丘シェルガーデンの外装

クリアできるかは大きな問題でしたが、この出合いを大きなチャンスと捉え、スタッフはさまざまな流通大手基準をクリアしてくれました。この結果、10月18日には、株式会社シェルガーデン本社にて、自由が丘「ザ・ガーデン」本店への出店に向けた試食会を開催。稲富仁代表取締役社長をはじめ、役員の皆様20名が入れ替わり試食会に参加され、高い評価をいただきました。そして11月15日、自由が丘「ザ・ガーデン」本店に新規オープン。同店は、シェルガーデンの原型となった歴史ある店舗

職員の経営意識を高める「アメーバ経営」導入

業績の改善とサービスの質の向上を目指して

改正社会福祉法により、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化が問われ、社会福祉法人の経営は大きな転機を迎えました。この厳しい経営環境に打ち勝ち、全社員で知恵を出し、確実に目標達成できる経営力・組織力・マネジメン

ト力を発揮できる法人にするため、「アメーバ経営」を導入しました。



京セラの指導員と重点項目シートの徹底復習

センターでは、その理念の実現と職員の幸せを目標に、それぞれの小

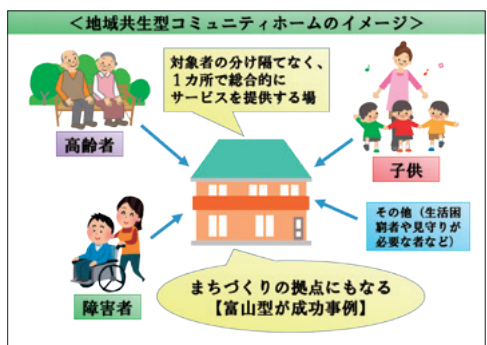
集団組織（アメーバ）毎に全員で経営に取り組みながら、目標管理の徹底、職員待遇の改善、業績配分の見直しを図ってきました。全員参加経営を推進することで、職員一人ひとりの経営意識を高めるとともに、「のれん分け」による独立・起業も視野に入れられるような人材教育・育成にも注力してまいります。

「地域共生社会」の実現に向けて

法改正による共生型サービスへの取り組み

平成29年2月、厚生労働省が発表した「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部は、「制度や分野ごとの『縦割り』や『支え手』『受け手』という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」を、「地

域共生社会」と位置付けました。この実現に向け、高齢者と障害者が同一の事業所でサービスを受けやすくするため、新たに「共生型サービス」が創設されることになりました。障害福祉サービスを核に、介護保険サービスや保育サービスも手がけるいたるセンターだからこそ、街づくりの拠点にもなる新事業についても、積極的に研究・検討を重ねていきます。



地域共生型ホームのイメージは、富山型がベースに



自由が丘店は、レジを抜けた絶好の位置に出店

（法人本部 山本聖示まで）

「出来立てパンの提供が、待ち遠しいですね」

株式会社シェルガーデン
代表取締役社長 稲富 仁様



シェルガーデン本社での試食会に稲富社長も参加

いつも大変お世話になっております。また、平素より弊社荻窪店、自由が丘店に心のこもったパンをご納品いただき本当にありがとうございます。先月よりお取引をさせていただいている自由が丘店においては、お客様の認知度も上がってきており、来春の「出来たてパンの提供」を待ち遠しく思っております。今後とも、末永くお取引を賜りますよう、お願い申し上げます。

ピックアップいたる

大切なご利用者様を、
ゲストとしてお迎えできる空間を作りました!

短期入所クローバー 全面改装!

リピーターやミドルステイのご利用が急増中!

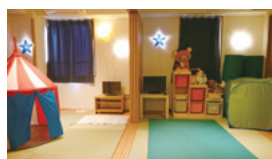
クローバーが屋舎建て替えてリニューアルしてから早いもので5年が過ぎ、これまで支えてくださったご利用者様に何か還元できることはないかと考え、事業所内をご利用者様がより快適に過ごせるよう全面的に改装しました。改装にあたっては、スタッフ全員で意見を出し合い、『緑のある落ち着いたカフェのような空間』をコンセプトに、今年度の6月より少しずつ進めてきました。スタッフ自らが落ち着いて過ごせる空間でないと、ご利用者様に快適で特別な時間を過ごしていただくことはできないと考え、従来の福祉施設のイメージから脱却できるよう改装しました。実際に「おしゃれになった」「インスタ映える」「毎回来るたびに綺麗になっている」「木の香りが良い」等ご利用者様のみならず保護者の方、見学で訪れた方、様々な方から高評価をいただいております。

ご利用者様の受け入れの合間をぬっての改装でしたので時間を必要としましたが、ここに来てようやく皆さんに自信をもってご案内する事ができる状態になりましたので、事業所の見学会を実施したいと考えております。是非実際に来ていただいて変化を感じてください!!

■見学会実施日:平成30年1月20日(土)10時30分~16時
(クローバー:03-3398-2241まで)



ご利用者様に人気の、落ち着いた雰囲気のリビングダイニング



ソファにはクッションがいっぱい。グリーンや照明が和みの空間を演出

コラム:ショートステイって何?

在宅の障害者が、施設に一時的に入って生活の援助を受けるサービスです。在宅の障害者が、日常介護を行っている保護者または家族の方の病気、出産、冠婚葬祭、その他の理由で介護を受けることができなくなった場合に、施設に短期間入って生活の援助を受けることができます。対象は、障害者総合支援法の規定による介護給付費短期入所の支給決定を受けている区内に住所を有するおおむね5歳以上65歳未満の在宅の障害者です。

【目黒本町福祉工房】ご利用者様が、第2回目黒シティランに出場!

2017年11月26日(日)に開催された第2回「目黒シティラン」に、目黒本町福祉工房・就労継続支援B型のご利用者様4名が参加。全長10kmのコースを全員が完走しました!

目黒区のスポーツ振興を目的としたイベントとして昨年度から始まった目黒シティランに出場することになりました。大会当日は爽やかな秋風が吹く中、目黒のメインストリートを駆け抜ける皆さんの姿を見て感動いたしました。参加されたご家族の皆様、ご協力いただいたボランティアの方、伴走職員が一つのチームになり、地域社会の一員として参加できたことは最高の体験だったと思います。
(目黒本町福祉工房 工房長 阿久津庄司)



伴走職員とともに、仲良く全員完走

いたる広報委員

発行責任者=谷山 哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: http://www.itarucenter.com/
発行日/平成30年1月1日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。



ITARU CENTER

【お詫びと訂正】

いたる通信No.66号(平成29年10月1日発行)の掲載内容の一部に誤りがございました。

◎2ページ目・第一部50周年記念式典写真の説明文

(誤) 杉並区保健福祉部 課長 有坂幹朗様
(正) 杉並区保健福祉部 部長 有坂幹朗様
謹んで訂正いたしますとともに、関係者の皆様にご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

設立50周年記念事業寄附金募集

設立50周年にあたり、次代を担う人財の確保と教育・育成を進めるための寄付金を募集します。みなさまのあたたかいご支援を、お待ちしております。

事業内容: 次代を担う人財の確保と教育・育成
ご寄付のお礼: 社会福祉法人いたるセンター・
設立50周年記念誌をお贈りします。

募集目標額: 1,000万円
募集期間: 平成29年7月1日~平成30年3月31日
お振込み先: 西武信用金庫 荻窪西口支店
普通口座 2201961
口座名義: 社会福祉法人いたるセンター
理事 谷山哲浩

※お振込後、法人本部山本聖示まで、ご一報いただければ幸いです。
寄附申込書を郵送いたします。
電話: 03-3392-7346 (法人本部・山本聖示)



50周年記念誌